

病害虫発生予察情報

- 1 令和 5 年度 病害虫発生予察 予報第 8 号 (11 月)
- 2 気象情報 九州北部地方 1 か月予報 (福岡管区气象台)
 气象台メモ (大分地方气象台)

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

◎予報内容の概況

作物	病害虫名	発生面積		発生量		掲載ページ
		平年比	前年比	平年比	前年比	
夏秋トマト	すすかび病	－	やや多い	－	やや多い	P.2
	灰色かび病	－	前年並	－	前年並	P.2
	コナジラミ類	－	前年並	－	前年並	P.3
白ネギ	ネギアザミウマ	やや多い	やや少ない	前年並	前年並	P.3
	シロイチモジヨトウ	やや多い	前年並	前年並	前年並	P.4
	ネギハモグリバエ	前年並	前年並	やや多い	多い	-
イチゴ	うどんこ病	前年並	前年並	前年並	やや少ない	P.5
	ハダニ類	前年並	前年並	前年並	前年並	P.6

◎注意事項 上記一覧表病害虫のゴシック体のみ以下に個別の記述をしています。
 夏秋トマトの 10 月調査は、令和 3 年度から開始のため、前年比のみです。

◎特記事項

- 令和 5 年度病害虫発生予察注意報 第 3 号 (ピーマン アザミウマ類) : 令和 5 年 8 月 25 日
- 令和 5 年度病害虫防除技術情報 第 5 号 (トマトキバガ) : 令和 5 年 9 月 22 日
- 令和 5 年度病害虫防除技術情報 第 6 号 (秋季の高温傾向時における防除対策)
 : 令和 5 年 10 月 2 日

夏秋トマト

1 すずかび病（令和5年10月2日 病虫害防除技術情報 第6号発表）

（1）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

（2）予報根拠

ア 10月中旬の巡回調査では、「甚」発生が1圃場、「少」発生が3圃場で確認された。夏秋トマトの10月巡回調査は令和3年度から開始のため、前年と比較したところ、発生圃場率、平均発病葉率ともに前年より高かった。

発生圃場率：80.0%（平年：－、前年：50.0%）

平均発病葉率：19.5%（平年：－、前年：10.5%）

イ 本病は比較的高温条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率50%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 肥料切れ、過繁茂、排水不良は病勢の進展を助長するので、下葉のつみ取り等を行って圃場内の通風を良くし、初期防除を徹底する。

イ 施設内の換気を十分行い、過湿防止に努める。

ウ 予防効果のある薬剤を定期的に散布し予防を徹底する。

2 灰色かび病

（1）予報内容

発生面積：前年並

発生量：前年並

（2）予報根拠

ア 10月中旬の巡回調査では、病害の発生は確認されなかった。夏秋トマトの10月巡回調査は令和3年度から開始のため、前年と比較したところ、発生圃場率、平均発病葉率ともに前年並であった。

発生圃場率：0%（平年：－、前年：0%）

平均発病葉率：0%（平年：－、前年：0.1%）

イ 本病は多湿条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率30%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア ハウス内の過湿防止に努める。

イ 発病葉や発病果は伝染源となるので見つけ次第除去し、圃場外に持ち出して処分する。

ウ 同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。

3 コナジラミ類

(1) 予報内容

発生面積：前年並

発生量：前年並

(2) 予報根拠

ア 10月中旬の巡回調査では、「少」発生が1圃場、微発生が3圃場で確認された。発生種は、タバココナジラミとオンシツコナジラミであった。夏秋トマトの10月巡回調査は令和3年度から開始のため、前年と比較したところ、発生圃場率、平均株当虫数ともに前年よりやや低かった。

発生圃場率：20.0%（平年：－、前年：33.3%）

平均株当虫数：0.8頭（平年：－、前年：1.2頭）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は葉裏に寄生して吸汁加害し繁殖も旺盛なため、早期発見に努め発生を認めたら直ちに防除を行う。

イ 本虫は多種の雑草にも寄生し増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

ウ タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を、またコナジラミ類はトマトクロロシスウイルス（ToCV）を媒介するため、薬剤散布を徹底するとともに、防虫ネットなどを使用してハウス内への侵入阻止を徹底する。

エ オンシツコナジラミはアセタミプリド（IRACコード「4A」）に対して薬剤感受性が低下しているため、本虫を対象としたアセタミプリド剤の使用は控える。

白ネギ（平坦地）

1 ネギアザミウマ（令和5年10月2日 病害虫防除技術情報 第6号発表）

(1) 予報内容

発生面積：やや多い

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 10月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや高く、平均被害度は平年並であった。

発生圃場率：75.0%（平年：57.1%、前年：100%）

平均被害度：9.5（平年：8.6、前年：10.2）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 周辺雑草が発生源となりやすいので、圃場内外の除草を徹底する。

イ 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め防除を行う。

2 シロイチモジヨトウ（令和5年10月2日 病害虫防除技術情報 第6号発表）

（1）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：平年並

（2）予報根拠

ア 10月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや高く、平均被害葉率は平年より低かった。

発生圃場率：75.0%（平年：59.6%、前年：62.5%）

平均被害葉率：3.1%（平年：5.8%、前年：2.6%）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

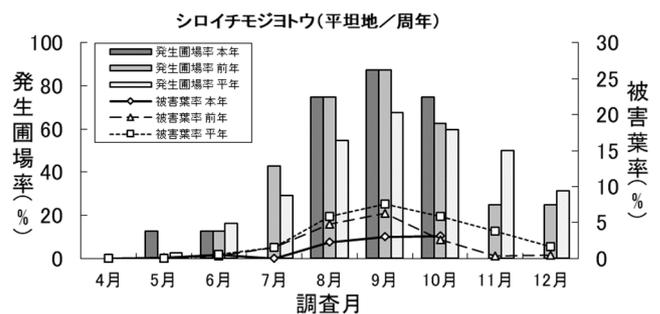
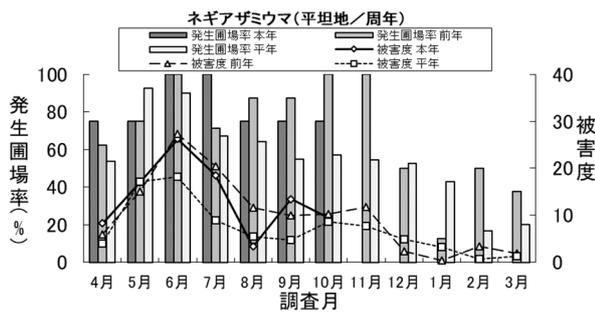
ウ 県内各地に設置しているフェロモントラップへのシロイチモジヨトウの10月の誘殺数は、県北部において平年より多く確認されている。

（3）防除上注意すべき事項

ア 本虫は成長に伴って防除効果が低下するため、早期発見に努め防除を行う。

イ 本虫は薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、IRACコード表を参照して、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。

ウ 一部地域の個体群でIRACコード「28」（ジアミド系薬剤：フルベンジアミド、クロラントラニリプロール）、IRACコード「15」（フルフェノクスロン）およびIRACコード「18」（クロマフェノジド）に対する感受性の低下が確認されたため、散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控える。



イチゴ

1 うどんこ病（令和5年10月2日 病害虫防除技術情報 第6号発表）

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 10月中旬の巡回調査では発生は確認されず、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より低かった。

発生圃場率： 0%（平年： 11.0%、前年： 0%）

平均発病株率： 0%（平年： 1.8%、前年： 0%）

イ 本病は気温 20℃前後で多湿と乾燥が繰り返される時に発病が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 30%、高い確率 50%、降水量は、少ない確率 30%、平年並 40%と予想されている（気象情報参照）。

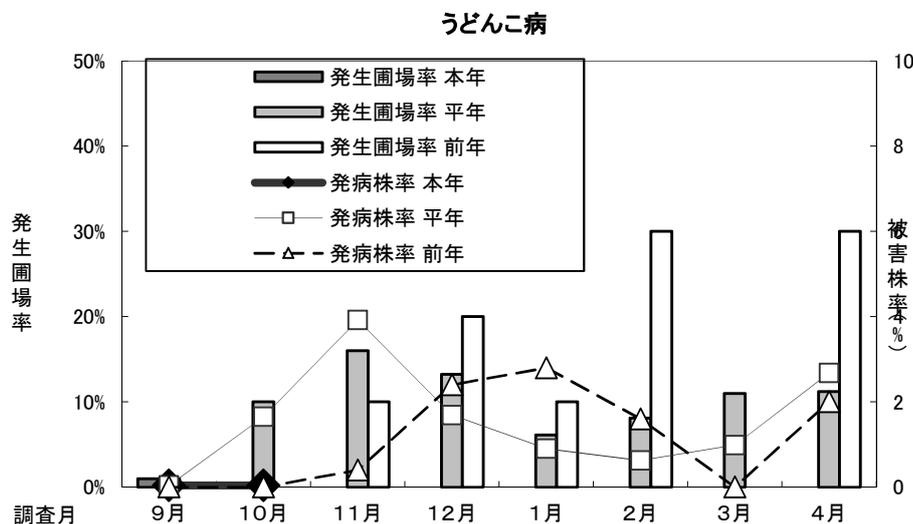
(3) 防除上注意すべき事項

ア 初め葉裏に発生しやすいので、注意して早期発見に努める。

イ 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布する。

ウ 発病葉は伝染源となるので取り除き、圃場外に埋めるなどして適切に処分する。

エ FRACコード「3」（EBI系薬剤）やFRACコード「11」（QoI剤：アゾキシストロビン、クレソキシムメチル等）は連用すると耐性菌を生じやすいので、FRACコード表を参照して他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。



2 ハダニ類（令和5年10月2日 病害虫防除技術情報 第6号発表）

（1）予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

（2）予報根拠

ア 10月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生株率ともに平年並であった。

発生圃場率：40.0%（平年：38.6%、前年：60.0%）

平均寄生株率：12.4%（平年：11.3%、前年：12.0%）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

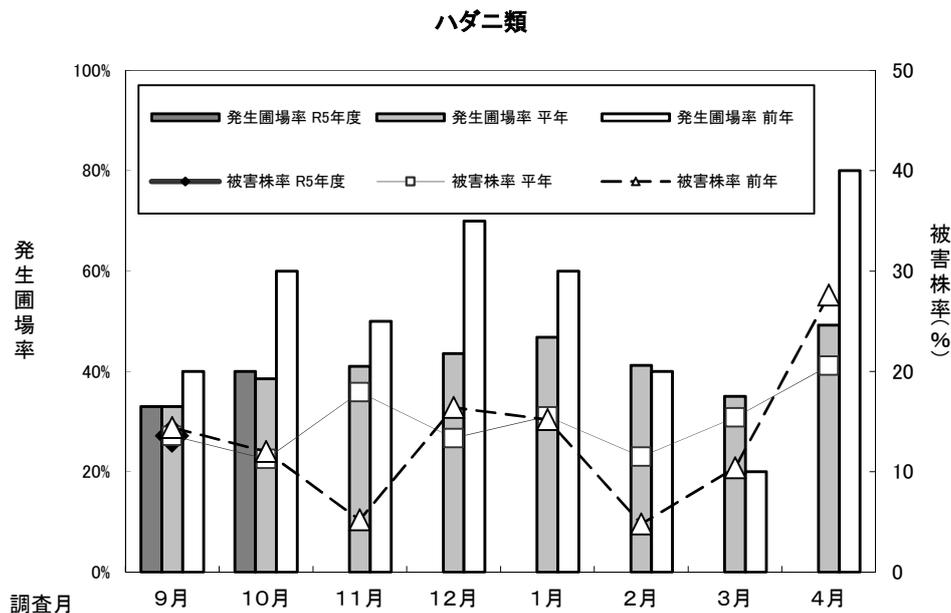
（3）防除上注意すべき事項

ア 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、葉裏を中心に防除を行う。

イ 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、薬剤散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控えるとともに、天敵（カブリダニ類）の導入を検討する。

ウ 2回目以降の天敵放飼は、ハダニ類が確認できない場合でも予防的に実施する。

エ 乾燥条件下になるとハダニ類の活動が活発になり、天敵の活動が抑制される。



※ 薬剤の詳細は大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針、又は各地区防除暦を参照する

気象台メモ

大分地方気象台

◎ 九州北部地方（山口県を含む）1か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和5年10月19日（毎週木曜日に発表）
- ・予報期間：令和5年10月21日～令和5年11月20日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間のはじめは、かなり低い日もありますが、2週目は、気温がかなり高くなる可能性があり、気温の変動が大きいです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

【向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）】

要素	予報対象地域	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
降水量	九州北部地方（山口県を含む）	30	40	30
日照時間	九州北部地方（山口県を含む）	30	40	30

◎ 九州北部地方（山口県を含む）3か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和5年10月24日
- ・予報期間：令和5年11月～令和6年1月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

11月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

12月 平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

1月 平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

【向こう3か月の気温、降水量の各階級】

- | | | |
|-----|-----------|------------|
| 3か月 | 気温：高い | 降水量：平年並か多い |
| 11月 | 気温：平年並か高い | 降水量：ほぼ平年並 |
| 12月 | 気温：高い | 降水量：ほぼ平年並 |
| 1月 | 気温：高い | 降水量：平年並か多い |

【向こう3か月の気温の各階級の確率（%）】

気温	予報対象地域	低い	平年並	高い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
11月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40
12月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
1月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50

【向こう3か月の降水量の各階級の確率（%）】

降水量	予報対象地域	少ない	平年並	多い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40
11月	九州北部地方（山口県を含む）	30	40	30
12月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40
1月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40

9月下旬（高温）

天気は、前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、宇目で平年並、他は平年より少なかった。日照時間は、平年より多いか、平年並だった。

11地点で「月平均気温の高い方から」、9地点で「月降水量の少ない方から」が9月の1位の値を更新した。※大分市の旬平均気温は25.5℃で平年よりかなり高かった。旬降水量は6.5ミリで平年より少なかった。旬日照時間は47.7時間で平年並だった。

10月上旬

天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多かった。気温は、中津、玖珠で平年より低く、他は平年並だった。降水量は、武蔵、蒲江で平年より少なく、他は平年並だった。日照時間は、宇目で平年並、他は平年より少ないか、かなり少なかった。

※大分市の旬平均気温は21.3℃で平年並だった。旬降水量は39.0ミリで平年並だった。旬日照時間は40.3時間で平年より少なかった。

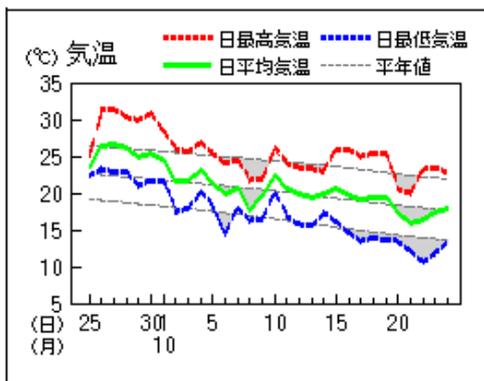
10月中旬

天気は、前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、玖珠、湯布院、佐伯で平年より低く、他は平年並だった。降水量は、湯布院、椿ヶ鼻で平年並、他は平年より少ないか、かなり少なかった。日照時間は、中津で平年よりかなり多く、他は多かった。

※大分市の旬平均気温は19.5℃で平年並だった。旬降水量は0.0ミリで平年よりかなり少なかった。旬日照時間は72.3時間で平年より多かった。

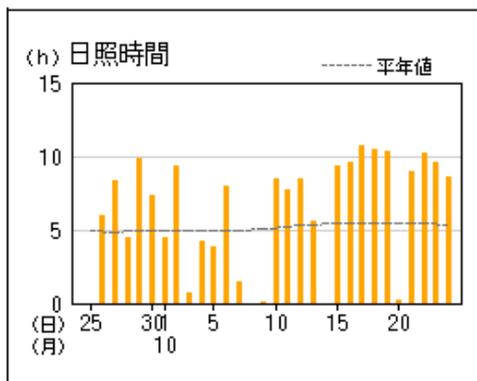
地上気象 気象経過図：2023年09月25日-2023年10月24日

大分



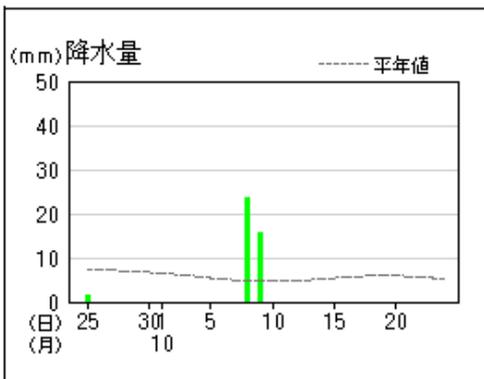
地上気象 気象経過図：2023年09月25日-2023年10月24日

大分



地上気象 気象経過図：2023年09月25日-2023年10月24日

大分



適正防除はホームページで!!

☆令和5年2月10日より

新ホームページに移行しました

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

または

病虫害対策チーム

検索



農業研究部

病虫害対策チーム

葉根菜類・茶業チーム

果樹グループ

花きグループ

地域農業振興課

安全農業班

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部 病虫害対策チーム

〒879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8

Tel. 0974-28-2078

Fax. 0974-22-0940

大分県農林水産部地域農業振興課 安全農業班

〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

Tel. 097-506-3661

農薬は正しく安全に使いましょう!

